

おかやまみなみ

岡山南遺跡

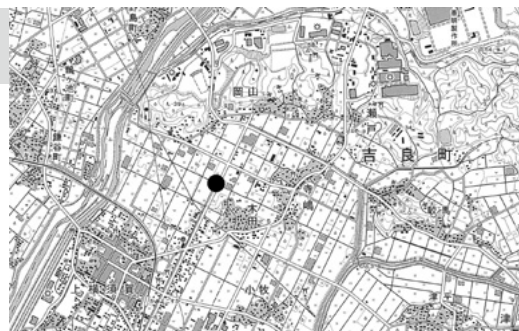
所在地 西尾市吉良町木田
(北緯34度50分15秒 東経137度4分38秒)

調査理由 道路改良工事 一般県道西尾幡豆線

調査期間 平成24年4月～平成24年7月

調査面積 1,075㎡

担当者 酒井俊彦



調査地点 (1/2.5万「西尾」)

調査の経過 本調査は県道西尾幡豆線の改良工事に先立つもので、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて調査を実施したものである。昨年度は遺跡の東半を調査し、古墳時代、古代、近世の3時期の遺構が確認されている。今年度は遺跡の西半の調査を行った。県道用地に南北方向に直行する市道の拡幅部分にA・Bの2調査区、市道西側の県道用地内にC・Dの2調査区を設定した。

立地と環境 遺跡は矢作川下流域、古矢作川左岸の沖積地に位置する。現在は平坦な地形であるが、沖積微高地上に立地している。遺跡の北側には三河山地からのびる岡山と呼称される丘陵地帯が存在する。この丘陵上に中根山遺跡、吉良八幡山古墳、若宮古墳群などが所在し、この南側に岡山南遺跡などの遺跡群が分布する。この地域には未調査ながら弥生時代以降の遺跡群が確認されているが、旧吉良町地域の沖積地での調査は本調査が初例である。

調査の概要 遺構面は2面存在し、第1面奈良時代以降、第2面古墳時代初頭の遺構が検出された。調査区は沖積微高地上に所在するため大部分は削平をうけ、第1面が消失し、第2面で全時期の遺構を確認した。A区の南端部分は微高地面が下がるため、第1・2面が存在した。

第1面の主な時期として、中世、古代がある。中世の遺構としてはA区で土坑墓が3基確認された。遺物は検出されないが、埋土の状態、遺構の規模・平面形態より土坑墓と考えられる。また、戦国時代の遺構としては、C・D区で南北方向の溝3条、および水田の畦畔の高まりが検出された。溝は並行して同一方向に走り、東側の溝は掘方がやや大きく、屋敷地の区画溝の可能性がある。また、畦畔と水田の落込みが検出された。溝および水田の埋土中より15世紀後半から16世紀前半の古瀬戸施釉陶器、土師器が出土した。平安時代の遺構としてはC区で井戸が1基検出され、井戸枠は平面形が隅丸方形の曲物が最下段のみ確認された。平安時代後期の灰釉陶器が出土している。奈良時代の遺構はC・D区で溝2条が確認された。やや離れた位置でほぼ平行に南北方向に走る。いずれも幅1.5mほどで1回の掘り返しが確認された。出土遺物は少量ながら、完形の須恵器杯等が出土した。性格は不明である。第2面の遺構として、古墳時代初頭の竪穴住居、溝、土坑が検出された。竪穴住居はA区の南半で3棟検出された。古墳時代以後の削平を受け、遺存状況は悪い。溝はA区で東西方向の溝1条、C・D区で南北方向の溝1条を確認した。A区の溝は検出面で掘り込みは浅く、台付甕がややまとまって出土した。C・D区の溝は断面V字でやや深く、遺存状況は良い。壺、甕、高杯などがまとまって出土した。近接して竪穴住居は検出されていないが、出土状況などから集落を巡る溝の可能性がある。この溝は上層の奈良時代溝と同方向で重複しており、地形的関連が考えられる。

今後、県道建設にともなう調査が進行し、資料の増加が見込まれる。近辺の遺跡との関係を明らかにする事が課題である。(酒井俊彦)

